

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



幼稚園の3年間が変えたものとは？

懐かしい人が訪ねてくれました。昨年度まで3年間、本園で担任をしていたT先生です。小学校に戻って3ヶ月。私は、彼女との再会をとても楽しみにしていました。というのは、小学校教諭が幼児教育の現場に一定期間身を置くということが、一人の教師の何を変えるだろうか、とても興味があったからです。

彼女は、「ここ（附属幼稚園）に来たからこそ学べたことが沢山あることに気づきました。」と言いました。そして、現在担任する子どもたちとの関わりの中で、幼稚園で身についた「子どもの見方」や「手立て（援助）」がいかに小学校現場であっても大切かつ有効であるか、様々なエピソードと共に語ってくれました。

「一年生と接する時にも、その子の幼稚園の頃の姿が想像できるのです。その子が幼稚園で経験し、できることは、『どうすればいいと思う？』と子どもに考えさせます。でも経験していないことや初めてのことは、手順を踏んで丁寧に教えています。」「子どもができないことを責めるのではなく、じっくり『待つ』こと、『スモールステップを工夫する姿勢』も幼稚園で身についた力です。」「今は、お箸一つにも目がいきます。箸の種類、握り方、使い方が気になり、うまご飯をつかめない子どもには、家庭で使うお箸と違うのではないかと尋ねたりもしました。」そう笑顔で話してくれました。話を聞きながら、彼女が身につけた新たな力は、「教師」という仕事の根幹を成すとても大事な「能力」だと感じました。そして、それが幼稚園現場で身についたということに感嘆の念を禁じ得ませんでした。

「小学校の先生方には、是非幼稚園の教育を、来て見て知って欲しいですね。きっと、沢山の学びがあると思いますから。」彼女の生き生きとした表情からは、小学校でも充実した日々を過ごしていることが察せられ、安堵すると共に、附属幼稚園の存在意義の大きさも再確認できた嬉しい再会のひとときでした。



新しい顔ぶれが多かった 第2回「すくすく広場」



7月8日、地域子育て支援の一環として未就園児さん対象の「すくすく広場」を開きました。

今回は44組もの親子の皆さんに参加して頂き、楽しい時間となりました。いつもリピーターが多い中で、今回は初参加の方が22組。中には、本園への入園を検討されている方もいらっしゃるということで、営業部長でもある園長はしっかりと最後に本園の魅力をアピールさせて頂きました。甲斐先生のわらべ歌と読み聞かせも大好評でした！



「園長先生、黄色いトマトあげる。赤くなったら食べていいんだよ。」そうか、この子にとって、トマトは絶対「赤い」ものなんだな！「私、黄色いトマト食べたことある〜。」「私は赤いのしか食べたことない〜。」「子どもたちの発する言葉は、全てその子の経験から出たものである。赤いトマトしか食べたことがなければ、当然赤くなるまで待とうとする。もしそういう子がいたら、黄色いトマトを栽培させている幼稚園の先生は、どうするのかなあ〜。」

黄色いトマトは赤くなるのか？

「園長先生、黄色いトマトあげる。赤くなったら食べていいんだよ。」そうか、この子にとって、トマトは絶対「赤い」ものなんだな！「私、黄色いトマト食べたことある〜。」「私は赤いのしか食べたことない〜。」「子どもたちの発する言葉は、全てその子の経験から出たものである。赤いトマト